



国指定重要文化財 札幌市時計台

時計台の鐘

第 78 号

特定非営利活動法人

さっぽろ時計台の会

会 長 木 原 直 彦

札幌市中央区北1条西2丁目

時計台内

TEL 011-251-5944

ああ、時計台

会 長 木 原 直 彦

日常の生活のなかで時計台の写真を目にしない日など、まず、無かろうと思うのですけれど、昨年暮れの一葉が近年になく稀と言っているほど強く印象に残りました。北海道新聞(平成25・12・8)に載った「ほっかいどう歌の風景―時計台の鐘」です。夕暮れのなか、やや俯瞰気味に時計塔をアップしたもので、キャプションには「車の往来がせわしい時間帯だが、大時計が鐘を打ち出すと一瞬、風景が止まったように感じる」とあります。

ところで、本文の書き出しに「札幌の時計台にはありがたかない呼び名がある。『三大がっかり名所の一つ』と書かれています。昔の街並写真を見ると時計台の建物はひときわノッポだったので、急激な都市化のなかでビル谷間に埋もれてしまったばかりにガッカリ名所にされたけど、時計台は、ダンコとして札幌のシンボルなんでありませぬ。歴史・文化・建物・場所など、どういう視点から見ても由緒正しい存在なのです。決して決して、チッポケでも、ましてや貧弱でもありません。言ってみれば、評判が高いゆえの、有名税なのですな。

もう一つ忘れてならないのは、大正の末にできた名曲「時計台の鐘」が全体を包み込んでいることでしょう。まさに「鬼に金棒」というわけです。当会理事の前川公美夫著「響け『時計台の鐘』」でも立証しているように、この歌は時計台を一躍全国に広めたものでした。同じく全国の北大恵迪寮歌「都ぞ弥生」とともに双璧をなす。

×
昨年の10月16日は札幌農学校の演武場が竣工して135年目の記念日で、式典には上田札幌市長も出席されてご挨拶をちょうだいしました。5年前の130年のときには「時計台ものがたり」を刊行しましたが、今回は姉妹編として「札幌ものがたり」を編み、幸い好評をもって迎えられています。近代札幌14年の歩みを大きく五区分にし、それぞれ年表とトピックを組み合わせた本で、札幌の歴史書としては新しい試みです。時計台の売店のほか市内の各書店でも扱っていますので、手に取っていただければ嬉しく思います。

記念誌を編集しつつ、つくづく、時計台は中心部にあつて道都を見守りつつけてきたのだなあ、と強く思った次第です。まったくのところチッポケな時計台が今でも現地に「存在」しているのは、稀有なことと言わねばなりません。

そして、しきりに、北海道として札幌の精神の源をなす札幌農学校という学問の府の拠点であったことが思われます。明治9年(1876)に開校し、2年後に演武場が建ち、時計塔が設置されたのは更に3年後の明治14年でした。その歩みのなかで記憶していることを一つだけ書きます。明治21年にこの大時計は札幌の標準時計になったことであり、明治39年に札幌区へ移管された頃からは市民に親しく「時計台」の名で呼ばれるようになったのでした。

第32回 (平成25年)

時計台まつり記念行事



創建記念式典・児童絵画展表彰式

創建135周年の節目の年に札幌児童絵画展表彰式を市長はじめ、多数のご来賓のご出席をいただき盛大に開催いたしました。台風接近のため、あいにくの天候で開催が危ぶまれましたが、児童のご両親をはじめ関係者の皆様が見守る中、何とか行うことができました。式典では、上田市長が「時計台の鐘」を歌って下さり、また、全員で歌うこともでき、喜ばしい式典となりました。

裏千家淡交会による呈茶

十月十一日(土)には、裏千家淡交会の方々から来館した皆様にお茶を入れてくださいました。当日は、朝から外国のお客様が多数お見えになり大喜びでお茶をいただいていた姿が心に残ります。着物姿にも感激していました。用意した雛菓子が十一時頃にはなくなり、大盛況を物語っておりました。



記念演奏会

各種ジャンルの音楽コンサート等を年5回実施しています。「広報さっぽろ」北海道新聞社社告各区分区施設へのチラシ配布を通し、市民への広報に努めた甲斐があり、盛会にコンサートを開催することができました。応募者が、入場者定員を上回るコンサートもありましたが、抽選をさせていただきます。

記念演奏会を通して、札幌市時計台をより市民に親しんでもらい、更には行事を通して札幌市への郷土愛、市民意識の向上を図るとする本行事の目的を十分に果たすことができたものと考えます。

平成25年度の音楽コンサート

- ① 六月二十六日(水) 篠笛演奏と絵本の夕べ
- 山口流笛の会、絵本の玉手箱
- ② 七月二十六日(金) 時計台スイングジャズタイム
- ウィ・ラブ・ジャズ
- 赤坂実カルテット+きむらあつこ
- ③ 八月二十七日(火) 木管三重奏
- ウッド ウィンド アンサンブル BOO
- ④ 九月二十六日(木) パワー オブ ラブ (ゴスペル)
- マザー クロス
- ⑤ 十月十六日(水) 混声合唱の夕べ
- 宮の丘混声合唱団

出演していただいた団体の代表者の方に感想を書いていただきました。ご紹介します。

赤坂実カルテット+きむらあつこ

「時計台スイングタイム」へようこそ
百三十年余も時を刻み続けてきた札幌時計台で「時」をテーマにしたジャズの名曲が親しめたら、さぞや素敵に違いない。これが時計台まつり記念行事応募の動機でした。以前から演奏会などで時計台ホールに足を運ぶことがあり、アコースティックなジャズもこの会場に似合うと確信していました。応募した催しのタイトルは「時計台スイングタイム」。時計台の振り子式機械時計というしくみにもふさわしいネーミングだと悦に入り、どんな曲がいいかな、と思いを馳せる企画段階から、すでに楽しい「時」は始まっています。幸い、採用いただき、市内のライブスポットで共演しているメンバーで準備を進めました。それが、リーダー 赤坂実(ベース)、滝川裕三(ギター)、高島諭(ピアノ)、佐藤俊彦(ドラムス)のカルテット。ボーカルの私も含め、いずれも札幌など道内を中



北海道新聞提供

心に活動するジャズ・ミュージシャンです。普段は小さなライブハウススポットが主戦場の私たちにとって、百五十人規模の時計台ホールはなかなかの大舞台。集客について当初は不安でしたが、入場希望の応募が好調で抽選になったと担当者からお聞きし安堵しました。



そして、七月二十六日、満席の中で開演。曲は「ジャスト・イン・タイム」、「アズ・タイム・ゴーズ・バイ」、「テイク・ファイブ」、「サマータイム」と続くうちに、時計台の開放された窓から「ボン、ボン」と夏の夜を彩る花火の音が低く響き、スウィングに同調してくれるようで愉快でした。この夜はジャズ名曲を中心に、服部良一曲「胸の振り子」も含めて十三曲を披露しましたが、私たちに記念すべき「時計台オリジナル・プログラム」となりました。

きむらあつこ

■ ウッドwindアンサンブル BOO ■

時計台まつり記念演奏会に参加して全国的に有名なさっぽろ時計台。札幌のシンボルといっても過言ではないあの建物で演奏会をさせていただいたのは、昨年の八月でした。

私たちが演奏会出演団体の広告を見たのは前年の12月。きっと応募団体が多く、私たちのような演奏会経験の少ない団体は選ばれなだろうと思いつつも、一縷の望みにかけて応募しました。数か月後、出演決定のお電話を頂いた時は本当に驚き、そしてさっぽろ時計台の舞台上に恥じない演奏が出来るか不安な気持ちもありました。フルート・オーボエ・クラリネットの木管三重奏で、どのようなプログラムでお客様に喜んで

らえるか私たちなりに考えました。そして、年齢や性別に関わらずだれでも知っている曲、主にコンクールで演奏されるクラシック・オリジナル曲、各楽器の独奏曲など、様々なジャンルの曲を取り入れ、構成しました。

演奏会の宣伝や集客、プログラム作成など、演奏以外のことはほとんど事務局の方々が準備してくださり、私たちは当日まで集中して練習に取り組むことができました。演奏会当日は朝から大雨だったにも関わらず、おかげさまでたくさんのお客様が開場前から時計台前に並んで下さり、ご来場していただきました。

会場は私たちの演奏スタイルにとっても合った響きで、終始気持ちよく、楽しく演奏することができました。またお客様も演奏が終わる度に温かい拍手を贈ってください、拙いアナウンスも笑顔で真剣に耳を傾けてくださいました。終演後もたくさんのお客様が声をかけて下さり、本当に嬉しい気持ちでいっぱいでした。

まだまだ実力も知名度も低い私たちですが、さっぽろ時計台で演奏させていただいたことは大きな自信に繋がっており、今の活動に活きています。これからもさらに向上心をもって演奏活動をしていきたいと思っております。

最後になりましたが、演奏会開催にあたりご尽力くださいましたさっぽろ時計台の会の皆様、ご来場くださったお客様に心より感謝申し上げます。そして、さっぽろ時計台の会の今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。 竹内亜希子

■ 宮の丘混声合唱団 ■

私たち、宮の丘混声合唱団は、昨年十月十六日に開催されました第32回時計台まつり記念演奏会パート5で演奏する機会をいただきました。

当日は、時計台創建135年記念式典並びに児童絵画展表彰式の後、演奏会名を「宮の丘混声合唱団による混声合唱の夕べ」と題して多くの市民の方々がお来場していただきました。 旧札幌農学校演武場として、とてもたくさんの

歴史の詰まっている会場での演奏会は、他の会場とは異なった、独特の匂いを感じさせました。十五曲を演奏し、最後に会場の皆さんと一緒に「時計台の鐘」を歌って無事終えることができました。演奏を終え感激を覚えたのは私だけではないと思います。企画していただいた関係者の皆さんに感謝申し上げます。

私たちは、今後も地域の介護ホームや病院等への訪問演奏会、そして市民合唱祭への参加など活動を続けて参ります。また機会がありましたら、時計台での演奏会を行いたいと思っております。この度は誠にありがとうございました。 代表 越後 修

当団は、毎週月曜日十九時から西区にあります宮の丘中学校で和気あいあい練習を行っております。一緒に活動してみませんか？ (66114481)

「時計台に感謝して」

矢倉 敏子

「時計台で働いてくれる人を捜してるんだけど……。」友人に頼まれて、「子供も大きくなつたし、やってみてもいいかな」と思い、売店とは知らずに入った時計台です。せいぜい二、三年のつもりで勤め始めたのですが、いつの間にか十年も経っていました。

こんなに長く勤める事が出来たのは、やはりお客様が喜んでくれたのが一番の理由だと思います。毎年必ず来てくれる人、新婚旅行以来だと懐かしんでくれる御夫婦、お財布の残金を見ながら御土産を買ってくれる学生さん。

都会のビルの中、独り異彩を放つ時計台です。喧騒のなかでも、耳をすませば鐘の音が聞こえます。その鐘の音に、訪れる人の心は安らぎ、「又来ようかな」と思うそうです。

「有難う御座います」「楽しかったです」との御手紙も頂きます。私のほうこそ、皆様へ感謝です。見知らぬ人達と出会い、素敵な時間をくれた「時計台に」感謝です。

売店から

平成25年度 会の主な活動

- 3月7日 時計台まつり記念行事の出演団体決定・連絡
- 4月20日 時計台まつり実行委員の委嘱依頼
- 27日 「広報さっぽろ」6月号原稿依頼
- 28日 会計監査
- 5月5日 総会・理事会開催案内
- 9日 時計台まつり実行委員会
- 15日 第1回理事会（総会議案審議）
- 25日 通常総会（活動・決算報告、活動計画・予算審議）
- 28日 「広報さっぽろ」7月号原稿依頼
- 6月1日 札幌市へ記念行事負担金交付申請
- 道新、その後順次申請
- 札幌市、NHK等へ名義後援、協賛、特別賞出賞の依頼
- 小学校長会等関係各所へ後援申請
- 8日 演奏会プログラム印刷発注
- 10日 消防署へ催物開催届提出
- 20日 会員への総会報告・会費納入案内
- 18日 児童絵画作品募集案内依頼
- 26日 第1回時計台まつり記念演奏会
- 篠笛演奏と絵本の夕べ
- 7月15日 各小学校へ児童絵画展作品募集のチラシ配布、掲示依頼
- 26日 第2回時計台まつり記念演奏会
- 時計台スウィングタイム〜ウィ・ラブ・ジャズ
- 8月25日 児童絵画展作品受付開始
- 27日 第3回時計台まつり記念演奏会
- 木管三重奏
- 9月7日 児童絵画作品審査依頼
- 12日 記念式典来賓出席依頼
- 13日 児童絵画展審査会
- 15日 呈茶打合せ
- 26日 第4回時計台まつり記念演奏会
- Power of Love（ゴスペル）
- 10月10日 道新に児童絵画展入賞者発表
- 10~16日 児童絵画優秀作品展示
- 16日 時計台創建135周年記念式典・優秀者表彰式
- 創建記念演奏会
- 混声合唱の夕べ
- 19日 児童絵画展受賞者への賞状・賞品の届出
- 22日 後援・協賛事業終了報告とお礼
- 11月6日 次年度時計台ホール使用申請
- 7日 H25年度時計台目的外使用許可申請
- 15日 時計台まつり記念行事会計監査
- 21日 第2回時計台まつり実行委員会
- 12月1日 時計台まつり記念行事出演者の公募
- 「広報さっぽろ」に掲載
- 7日 同公募 道新社告に掲載
- 9日 第2回理事会案内
- 17日 第2回理事会
- 18日 会報原稿依頼
- 2月 会報78号発行予定
- 3月上旬 H26時計台まつり記念行事出演者決定予定

芳恵・義徳・馨―時計台寸描⑥

木原直彦

昨年、札幌市民憲章制定五十周年を記念して「道都札幌―輝き続けて」が刊行されたが、その中に作家の田中和夫さんが「時計台には格別な思いがある」と書いている。生徒のころの昭和三十三年に時計台にあった市立図書館に足繁く通っていたが、利用者が多く、入館書館に足繁く通つては限らず、書架前での立ち読み」だったと回想しておられる。

昭和四十年代、ぼくは親交のあった直木賞作家の和田芳恵さん、芥川賞作家の八木義徳さん、札幌生まれで故郷を壮大に描いた船山馨さん、道産子作家たけおと呼んでいた船山馨さんは、戦前期、いずれもこの図書館に親しんでいたの（現北海道）に学んでいた大正末期、「私は、海軍（北高）の国縫で生まれた和田さんは北海中学という年頃になって、札幌の大通りにある『時計台の鐘が鳴る』の歌で有名な図書館へ、毎日のように学校の帰りに寄った。／＼そこは、たしか貸出しが、一度に三冊だったから、整理カードをくつて、読みたい三冊の本を探しだし、それだけは、かならず読んで帰った」と随筆にみえる。

室蘭生まれの八木義徳さんは、北大水産専門部の学生だった昭和初期、「ぼくはこの時計台へ実に熱心な通勤者だった」。ここではじめて「文学」の

存在を知ったのだが、ぼくほど熱心な閲覧者はいなかったろう。と随筆のなかで自慢している。そして、こうも書く。「ぼくの頭の真上で、この鐘がかアーン、かアーンと登んだ古雅な時を告げはじめる。ぼくははじめて書物から眼を離し、読書に疲れた顔を軽く閉ちたま、この鐘に耳を傾けるのである。……あ、それは何という静かな休息であつたらう。それは何という温雅な抒情であつたらう」

船山さんは札幌つゆゆえに、作品の随所に時計台が現われる。ことに、「時計台の斜めに建つ昭和十年代の北海タイムス（現道新）で記者をしていただけに、親しみはいっそうであつたはず。出世作「北国物語」の主人公は北海新報社の記者で「探りに探つて警察廻りとは」主人公は夜の街をゆく。代表作の「石狩平野」の一節も印象が深い。次郎は壮大を青玉虫の採集に夢中になつていゝ演武場に連れて行つた。先輩で一階の博物館の渡瀬に引き合せてくれた。渡瀬は一階の博物館で気さくにあつてくれたが、壮大は陳列棚から引き出された昆虫類の標本に心を奪われてしまふ。

時計台のルーツは札幌農学校の演武場である。

事務局だより

◆この度、事務局長として昨年の六月一日からお世話になっております「吉田比佐子」と申します。この会の一番の目的は「札幌のシンボルである時計台を守り、より広く市民、道民、日本中の方々にこの建物の存在の大切さを伝えることとです」。そのためにこの会での様々な活動があると思われまますので、組織の皆様の思いをしっかりと受け止め、努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◆NPO法人「さっぽろ時計台の会」を安定的に存続していくために、会員を増強しなければならぬと考えます。会員になっていただけませんか！詳しくは、25115944（吉田）に連絡をお願いいたします。